

---

## 雜 報

---

◎陸軍特別大演習 本月 13 日より吉備の平野に於て舉行せられたる陸軍特別大演習に關し岡山醫科大學に於ける消息は左の如し。

11 月 12 日午後 3 時賀陽宮恒憲王殿下本學に台臨あらせられ田中學長の御案内にて學内御巡覽、生理、解剖、小兒科、産婦人科の各教室に於て各擔任教授の説明を聞召され同 4 時 10 分御機嫌麗はしく御歸還相成りたり。

11 月 13 日 大元帥陛下午後 4 時 5 分岡山驛に御着に付教職員並に學生三、四學年全部は岡山驛前にて奉迎せり。

11 月 17 日午前 10 時より岡山練兵場に於て舉行されたる觀兵式に職員並に學生一同拜觀せり。

同日觀兵式後催されし賜饌に左記諸君列席せられたり。

田中學長、上坂、八木田、敷波、好本、田村、生沼、安藤、稻田、奥島、津田各教授、池上助教授

11 月 18 日左記諸君に拜謁を賜はる。

單獨拜謁 田中學長、上坂、八木田、敷波、好本、田村、生沼、安藤、稻田、奥島の各教授

列立拜謁 津田、清水、柿沼、鈴木、田部、皆見、遠藤、緒方、畑の各教授、池上、田川、北山、關、大熊、上代、武田(俊)、林、小田、武田(縫)、松尾、榊原、怡土の各助教授、横田事務官、千輪學生主事、高橋講師、高月三郎

同日午後 1 時 50 分 天皇陛下御使本多侍從本學へ御着、貴賓室に於て田中學長より本大學一般に付御説明申上げたる後學内御巡覽、次に第一講堂にて田中學長「腦膜炎性迷路炎ニ就テノ實驗的研究」を御説明申上げ午後 2 時 30 分御歸還相成りたり。

同日田中學長は後樂園行在所に於て御陪食仰付けられ本大學の現状に就き種々御下問に奉答し退出せり。

11 月 19 日午前 8 時 30 分安達内務大臣來學細菌學教室に於て鈴木教授の今回岡山縣より 天皇陛下に獻上せる「岡山縣下ニ産スル特殊動物並ニ該動物ニ關スル研究論文目錄」(第六高等學校佐藤教授編纂、岡山醫科大學鈴木教授校閱)に就て説明し併せて其實物標本に就ての説明を聽き後學内を巡視し同 9 時歸還せらる。

同日午後 3 時 35 分 天皇陛下御還幸に付教職員は驛構内に於て一、二年學生一同は岡山驛前電車通に於て奉送せり。

---

## 人 事

岡山醫科大學教授 柿 沼 吳 作  
本俸四級俸下賜  
岡山醫科大學助教授 小 田 大 吉  
本俸十級俸下賜  
(十月二十五日)

臺灣總督府臺北醫 學專門學校教授 横 川 定  
暹羅、佛領印度支那、馬來半島、蘭領東印度、比律賓、英領香港及支那廣東へ出張ヲ命ス  
(十月十五日)

叙従六位	正七位 大 熊 泰 治 (八月十五日)	北上軍醫長兼分隊長 海軍軍醫大尉	三 宅 正 一
	従五位 入 倉 榮 暉	補矢別軍醫長兼分隊長	
	正七位 吉 岡 總 一 (十一月六日)	第十六驅逐隊軍醫長 海軍軍醫大尉	廣 川 濟
叙勳六等授瑞寶章		補吳海軍病院部員	(十一月二十日)
叙正五位	従五位 奥 島 貫 一 郎	叙従四位	正五位勳三等 泉 伍 朗 (九月十五日)
	従七位 得 能 倫 二		
	従七位 永 山 太 郎 (九月一日)	勳 等 賜 金 瑞四等 四〇〇	陸軍二等軍醫正 正六位勳五等 平 川 龍 造 (昭和四年九月五日)

- 赤井左一郎君 既記の如く歐米各國に出張を命せられたる岡山醫科大學附屬醫院藥局長赤井左一郎君は本月 5 日神戸出帆の伏見丸にて出發せられたり
- 馬 詰 征 平君 は豫て岡山醫科大學耳鼻咽喉科教室に勤務し居られしか今般神戸市恩賜財團濟生會兵庫縣病院耳鼻咽喉科に轉勤せられたり
- 秋 山 成 六君 は今般東京府下町田本町町田玉川診療所に勤務せられたり
- 小林和二郎君 は 皇太后陛下の恩召により癩功勞者として本月 10 日宮内省に出頭し恩賜の光榮に浴せられたり

佐藤直君逝く 元第三高等中學校教授佐藤直君は前年來萎縮腎にて靜養中なりしが本月 6 日遂に遠逝せられ越えて同 9 日東京市芝山内青松寺に於て葬儀を執行せられたりと洵に哀悼に堪へず謹みて茲に弔意を表す

中野忠一郎君逝く 君は明治 30 年第三高等學校醫學部を卒業し岡山縣病院眼科に於て研究し京都市に開業し今日に至りしが偶々病を得靜養に力められしも其效なく去月 14 日遂に遠逝せられたりと洵に哀悼に堪へず謹みて茲に弔意を表す

山田甫一君逝く 君は大正 9 年岡山醫學專門學校を卒業し長野縣諏訪郡平野村平野衛生醫院に勤務し居られしが突然急性肺炎に犯され本月 7 日遂に遠逝せられたりと痛惜に堪へず謹みて茲に弔意を表す

藤河喜人君逝く 君は明治 41 年岡山醫學專門學校を卒業し直に陸軍に出仕し後其職を辭し廣島市に寓居し居られしも近來健康を害し郷里に於て靜養し居られしが今其訃音に接したり洵に哀悼に堪へず謹みて茲に弔意を表す

箭田繁福君逝く 君は明治 36 年岡山醫學専門學校を卒業し大連市に開業し大に其手腕を揮ひ大正 2 年研學の爲め歐洲に留學の豫定なりしが世界大戦争の爲め之を中止し京都帝國大學醫學部に於て研究に従事し戦亂鎮定の後獨逸國に留學し歸朝後は再び大連市に於て開業し居られしが昨年廢業し岡山醫科大學に於て再び研究に従事し其業績も殆ど完成の域に達せしが本月中旬より感冒の爲め臥蓐し去 20 日岡山醫科大學附屬醫院に入院し治療中なりしが去 24 日俄然病革り遂に同夜遠逝せられたり尙に痛惜に堪へず茲に謹みて弔意を表す

◎學位授與 長野寛治, 谷内與一郎, 佐藤國男, 小池藤太郎の 4 君は論文を岡山醫科大學に提出し學位を請求し居られしが本年 9 月 15 日の教授會を通過し本月 7 日醫學博士の學位を授與せられたり其主論文及び参考論文は左の如し

長 野 寛 治 君

主 論 文

1. 肝臟「ヂストマ」病ノ豫防ニ關スル研究 (昭和 2 年 12 月第 7 回極東熱帯醫學會會報第 3 卷ニ發表セリ)
2. 肝臟「ヂストマ」ノ撲滅ニ關スル研究  
其 1. 水草除去並竹柴挿入ニヨル第一中間宿主「マメタニシ」ノ撲滅法ニ就テ (昭和 3 年 3 月東京醫事新誌第 2563 號ニ發表セリ)
3. 水草除去並竹柴挿入ニヨル「マメタニシ」驅除ノ野外實驗報告 (昭和 4 年 7 月東京醫事新誌第 2631 號ニ發表セリ)

参 考 論 文

1. 肝臟「ヂストマ」ノ諸問題ニ就テノ研究 (大正 15 年第 6 回極東熱帯醫學會會報第 2 卷ニ發表セリ)
2. 岡山縣下ニ於ケル肝臟「ヂストマ」第一中間宿主「マメタニシ」ノ分布ニ就テ (昭和 2 年 1 月本誌第 444 號ニ發表セリ)
3. 包囊幼蟲ノ集合法 (昭和 2 年 9 月本誌第 452 號ニ發表セリ)

谷 内 與 一 郎 君

主 論 文

1. 「アドレナリン」ニ因ル灌流囊肝臟出糖ニ及ボス諸種「アミノ」酸ノ影響ニ就テ (昭和 5 年 3 月日本藥物學雜誌第 10 卷第 1 號ニ發表セリ)

参 考 論 文

1. 「アドレナリン」囊肝出糖作用ニ及ボス「ヒヨリン」ノ影響ニ就テ 谷口與一郎, 清原徹一共著 (昭和 4 年 5 月日本藥物學雜誌第 8 卷第 4 號ニ發表セリ)

2. 超生蕈肝臟ニ於ケル「アドレナリン」出糖ニ對スル「アトロピン」ノ拮抗作用ニ就テ 谷内與一郎, 清原徹一共著 (昭和4年3月日本藥物學雜誌第8卷第3號ニ發表セリ)
3. 合成解毒機能ニ及ボス「インズリン」作用 谷内與一郎, 松島弘人, 石井萊兒共著 (昭和4年7月日本藥物學雜誌第9卷第1號ニ發表セリ)
4. 「コカイングリコゲノリラーゼ」ハ「アトロピン」ニヨリ抑壓セララルヤ否ヤ 谷内與一郎, 石井萊兒, 佐方眞三共著 (昭和4年7月日本藥物學雜誌第9卷第1號ニ發表セリ)
5. 「アドレナリン」ニ因ル蕈肝臟出糖作用ニ及ボス諸種「アミノ」酸ノ影響ニ就テ (昭和5年4月大阪醫學會雜誌第29卷第4號ニ發表セリ)

---

佐 藤 國 男 君

主 論 文

生體染色ノ本態ニ關スル研究

- 其1. (昭和4年12月「フオリヤ. アナトミカ. ヤポニカ」第8卷第1號ニ發表セリ)
- 其2. (昭和5年9月「フオリヤ. アナトミカ. ヤポニカ」第8卷第3號ニ發表ノ豫定)

參 考 論 文

1. 核小體ノ染色性竝ニ其生理的意義ニ就テ (昭和3年12月「フオリヤ. アナトミカ. ヤポニカ」第6卷第6號ニ發表セリ)
2. 直流ノ神經纖維ノ染色ニ及ボス影響ニ就テ (昭和4年3月「フオリヤ. アナトミカ. ヤポニカ」第7卷第1, 2號ニ發表セリ)
3. 神經内色素注入ニ就テ 佐藤國男, 結緣主計共著 (昭和4年10月「フオリヤ. アナトミカ. ヤポニカ」第7卷第5, 6號ニ發表セリ)

---

小 池 藤 太 郎 君

主 論 文

皮膚組織球ノ研究

- 其1. 皮膚組織球ノ研究 (本誌第42年第6號ニ發表セリ)
- 其2. 神經系統ノ皮膚組織球ニ及ボス影響 (本誌第42年第7號ニ發表セリ)
- 其3. 脾臟剔出ノ皮膚組織球ニ及ボス影響. 附. 網狀内皮細胞系統埋塞ト皮膚組織球 (本誌第42年第8號ニ發表セリ)
- 其4. 内皮ニ注射セラレタル「カルミン」細胞ノ運命 (本誌第42年第9號ニ發表セリ)

參 考 論 文

1. 癩細胞ニ對スル一考察 (本誌第41年第4號ニ發表セリ)
2. 黴毒患者ニ於ケル接種「マラリア」ノ血液學的寄生物學的研究. 特ニ「プラスモチウム」ノ數量的關係ニ就テ (皮膚科泌尿器科雜誌第28卷第11號ニ發表セリ)

3. 接種「マラリア」ノ經過觀察 皆見省吾, 小池藤太郎共著 (治療及處方第9巻第1號ニ發表セリ)
4. 血液種族ト接種「マラリア」 (本誌第40年第5號ニ發表セリ)
5. 結節性紅斑ニ對スル疑義ニ就テ. 特ニバザン氏硬結性紅斑トノ關係 (本誌第41年第1號ニ發表セリ)
6. 再び結節性紅斑ニ就テ (本誌第42年第10號ニ發表セリ)
7. 慢性傳染性疾患患者血液ノ家兎睾丸内接種實驗 (本誌第41年第9號ニ發表セリ)
8. 汎發性疣贅症ニ就テ (本誌第41年第2號ニ發表セリ)
9. 腎臟結核ノ手術成績殊ニ其治癒率ニ就テ 中川小四郎, 小池藤太郎共著 (日本泌尿器科學會雜誌第18巻第1號ニ發表セリ)
10. 外科的攝護腺疾患ニ於ケル血中「エオジン」嗜好細胞ノ消長ニ就テ 中川小四郎, 小池藤太郎共著 (日本泌尿器科學會雜誌第18巻第3號ニ發表セリ)
11. 膀胱結石ニ就テ 皆見省吾, 小池藤太郎共著 (診斷ト治療第15巻第2號ニ發表セリ)
12. 一新治淋劑「タルゲジン」ニ就テ (本誌第40年第9號ニ發表セリ)
13. 「ブローム, ストロンチウム, グルコーゼ」ト濕疹 (本誌第38年第12號ニ發表セリ)

◎**解剖祭** 岡山醫科大學にては去月29日午前10時より當市小橋町國清禪寺に於て昨年12月より本年11月の間に解剖せる80名の解剖祭を執行せり 定刻に至り一同著席するや僧侶の讀經あり次に田中學長及び學生總代八島壽君の祭文朗讀次に學長, 上坂, 田村教授, 學生總代, 來賓總代及び各遺族の焼香にて式を終り別室に於て茶菓の饗應ありて午前11時半一同散開せり

◎**京城通信 京城同窓會** 朝鮮醫學會總會特別講演の爲め東京より藤浪剛一氏が來城の好機會を捉へ9月19日夜第1回京城同窓會を全鮮第一の朝鮮料理店明月館にて開催したが大田より沖津君も参加せられ禿, 黒, 胡麻鹽頭連の懷舊談と朝鮮情致の觀風に時の移るをも覺えぬ盛會であつた恰も此日李甲洙君の學位授與發表あり一同藤浪, 李兩君の爲め乾盃し11時過ぐる頃散會した

出席者	藤浪剛一	同夫人	尾崎文七郎	鈴木茂
	沖津亘	李甲洙	同夫人	田邊操
	大田澄	野崎美稔	扇田豊	

幹事(李, 尾崎)

◎**阪神大十會** 大阪神戸地方に在住せる大正10年卒業生懇談會を10月25日午後6時より神戸市臨濱町前田樓に於て催したり. 恰も當日は神戸沖に於ける大觀艦式舉行の前夜にして百六十數隻の軍艦の美麗なるイルミネーションを眺め乍ら懷舊談に時を過し, 昭和6年度に行ふべき卒業10週年會に於ける再會を約し散會す

當日出席者諸氏

中野滿隆	平岡寛	渡邊直明	佐藤義敏	東未年男
前田純史	福島良教	清水勝男	尾藤太	川崎久夫

◎岡山醫費美作同窓會 本會は岡山縣下美作に在住する岡山醫科大學並に其前身岡山醫學專門學校、第三高等學校醫學部、第三高等中學校醫學部及び岡山縣醫學校の卒業生を以て組織されたる會にして會員相互の親和を旨とし併せて醫學の研鑽を目的とするものなり毎年菊薫る11月の候を卜して總會を開き大正7年第1回總會を開催し爾來引き續き毎年母校より講師として1、2名の教授を迎へて講演を御依頼せり。昨年度までの講師として御來津下されし教授の氏名を擧げて敬意を表す。

大正8年	筒井校長	大正14年	柿沼教授	皆見教授
大正9年	廣瀬博士	大正15年	津田教授	稻田教授
大正10年	中川博士	廣瀬博士	昭和2年	廣瀬博士
大正11年	上坂教授	好本教授	昭和3年	泉教授
大正12年	齋藤教授	奥島教授	昭和4年	柿沼教授
大正13年	金子教授	安藤教授		

而して本會々員も年と共に増加し現今にては會員49名(内津山市在住13名)の多きに及び地方同窓會に於ける一大權威たり。昭和4年度に於ては會員にして30年以上開業せる同窓のために其の功を擧げ表彰狀に本人の寫眞を贈つて表彰せり。

今之等同窓生の姓名と開業年度を擧ぐれば次の如し。

川上雄四郎君	明治20年開業	内田久太郎君	明治29年開業
粟井芳雄君	明治24年開業	西下武次郎君	明治31年開業
河本眞吾君	明治24年開業	岸岡修吾君	明治31年開業
保田幾次郎君	明治24年開業	河野稻太郎君	明治33年開業
後藤源次郎君	明治25年開業	谷口一郎君	不詳
杉山鉄太郎君	明治26年開業		

各君共に現今にては30年仁術勤勞の餘榮として各自功成り名遂げて或は悠々自適し或は地方醫界の元老として現今尙ほ盛に活躍せり。

本年度は特に縣下に陸軍大演習舉行さるるため期日をくり上げて10月19日舉行す。講師として母校より田中學長、皆見教授を招して講演を御依頼せり。兩先生には御繁務中をわざわざ遠路御來津下され田中學長には歐米視察談、皆見教授には尿路結石の診斷及び治療の演題のもとに御講演下され會員一同大満悦なり。而して兩先生の御足勞を感謝す。講演後津山市對鶴樓に懇親會を開催し兩先生の御出席を辱ふし相集まる者30名極めて盛會にして和氣瀾々裡に談笑夜の更くるを知らず、宴半ばにして兩先生には汽車の都合にて御退席さる。

現今に於ける會員左の如し (○印は昭和5年度出席者)

○河野稻太郎	○森六郎	○角田權	○万袋大祐	○砂田善平	○林昌
○赤堀淳太郎	○上原六郎	○杉山榮	○松葉周一	○光井貞八	○大谷顯三
○江原猪知郎	杉山鉄太郎	矢谷義夫	伊賀久家	松田丈平	川西道太郎
本名猛雄	三村友美	岸岡修吾	後藤源次郎	保田幾次郎	○内田久太郎

鈴木 鏗爾	牧田 正門	只友 一富	○小林 英輔	椋代 角二	○巖井 芳雄
谷口 一郎	木村 太郎	川上雄四郎	○影山 重士	○江川 慎吾	○桂 義一
阿部 常司	岡本東洋男	○倉内 嘉也	秋田 秀	○河本 眞吾	西下武次郎
石戸 魏	赤堀 茂樹	酒井 惣一	額田 正	○近光 増夫	菅 實
内田 唯一					

(當番 江原)